



Published quarterly
by the Japanese Division
of the International
Academy of Pathology

OFFICERS

PRESIDENT

H.Hashimoto, M.D. (09)

*University of Occupational and
Environmental Health*

PAST PRESIDENT

T.Morohoshi, M.D. (09)

Showa University

PRESIDENT-ELECT

O.Matsubara, M.D. (09)

National Defense Medical College

SECRETARY-TREASURER

N.Nemoto, M.D. (09)

Nihon University

COUNCILLORS

M.Shimizu, M.D. (08)

Saitama Medical School

T.Nojima, M.D. (08)

Kanazawa Medical University

T.Yoshino, M.D. (09)

Okayama University

T.Shiraishi, M.D. (09)

Mie University

T.sano, M.D. (10)

Tokushima University

H. Sasano, M.D. (10)

Tohoku University

COMMITTEE CHAIR

Education, Chair

Z.Naito, M.D. (09)

Nihon Medical School

Finance

H.Iwasaki, M.D. (08)

Fukuoka University

Nomination

T.Morohoshi, M.D. (09)

Course Director, SPU

R.Y.Osamura, M.D. (09)

Tokai University

国際病理アカデミー

日本支部

A NEWS BULLETIN 2008 Number1

2008年IAP日本支部会長年頭のご挨拶

会長 橋本 洋

産業医科大学医学部第一病理学

明けましておめでとうございます。会員の皆様には佳き新年をお迎えになられたことと心よりお喜び申し上げます。

現在のIAP日本支部会員数は573名で、国際的にみれば米国カナダ、ドイツ、英国、フランスに次いで第5位であり、これまでの先輩諸氏のご努力によりその活動も年々盛んになっております。国内では昨年6月に湘南国際村でSurgical Pathology Update 2007および12月8日(日本病理学会秋期特別総会の翌日)に教育シンポジウムとスライドセミナーが開催され、多数の参加者を迎えて大変好評でした。外国では、3月にSan DiegoでUSCAP (United States and Canadian Academy of Pathology)、5月にSingaporeで第5回Asia-Pacific IAP Congressおよび10月にはJeju島で第10回日韓合同スライドカンファレンスが開催され、いずれも日本から多数の参加者があり、活発な学術的交流のみならず、観光や懇親会で暖かいおもてなしを受け、非常に楽しい会でした。なお、12月7日には、長年の国内ならびに国際的学術的活動を通じ、日本の病理診断学の教育と発展に大いに貢献された下里幸雄先生と菊池昌弘先生への新たに設けられたIAP日本支部・Silverberg病理診断教育賞と長年に亘りIAP日本支部活動の発展に大いに貢献された櫻井勇先生と浅野伍朗先生へのIAP日本支部・功労賞の授与式ならびに祝賀会が開かれ、受賞された先生方を囲み、楽しい一時を過ごしました。

本年の湘南国際村でのSurgical Pathology Update 2008は6月13,14,15日に開催されます。Course Directorsのお一人(もう一人は長村義之前々会長)であるDr. Steven G. Silverbergによる「子宮内膜の病理」と米国のDr. Lester D.R. Thompsonによる「頭頸部腫瘍」がテーマとなっています(詳細は別に記載される予定です)。奮ってご参加下さい。9月6日には第2回日台合同スライドカンファレンスを福岡で私がお世話することになっております。多数のご来福をお待ちします。また、3月1日~7日にDenverでUSCAP、Athensでは10月12日~17日に第27回IAP国際会議が開催されます。これらの国際学会にこれから日本の外科病理学を担っていく多くの病理医が積極的に参加されることを願っております。

本年も諸星利男前会長、松原修次期会長、牛込新一郎本部前会長、長村義之前々会長(IAPアジア地区担当副会長)、根本則道常任幹事、内藤善哉教育委員長、岩崎宏会計監事および各理事の先生方と協力して、より充実した生涯教育ならびに国際的活動をめざし、IAP日本支部活動が益々発展できるように努める所存でありますので、会員の皆様には何とぞ宜しくご支援のほどをお願い申し上げます。

役員について(別紙参照)

3. IAP日本支部・病理診断学術奨励賞表彰
4. 2007年度決算および2008年度予算の件(別紙参照)
5. 病理学教育セミナー
 新規コースに関するバーチャルスライド化の件
6. SPU2008、湘南国際村
7. 第2回日台スライドカンファレンス (2008年9月6日、福岡市)
 世話人:橋本 洋 教授(産業医科大学)
8. 国際病理学会総会(2008年10月12日~17日、アテネ)
- 9.その他

IAP日本支部 Silverberg 病理診断教育賞 ならびに功労賞の受賞について

IAP日本支部は病理診断に関する教育的貢献に対して Silverberg 病理診断教育賞を、同支部活動に対する永年にわたる貢献に対して功労賞を設けている。平成19年においては下里幸雄先生と菊池昌弘先生がSilverberg 病理診断教育賞を、浅野伍朗先生と櫻井 勇先生が功労賞を受賞された。同賞の授賞式ならびに祝賀会が平成19年12月7日京王プラザホテルにおいて開催された。



Silverberg病理診断教育賞を受賞された下里幸雄先生



祝賀会で談笑する下里幸雄先生と菊池昌弘先生



功労賞を受賞された浅野伍朗先生



祝賀会出席者

IAP日本支部病理診断学術奨励賞の受賞について

病理診断学術奨励賞は、病理診断領域において優れた英文論文を発表した若手病理医(40歳以下)に対して送られる賞であり、平成19年度は松山篤二先生(産業医科大学院病理部)と 羽賀博典先生(京都大学医学部附属病院臓器移植医療部)の2名が受賞された。なお、本賞の授賞式はIAP日本支部主催の教育シンポジウム(平成19年12月8日)の休憩時間を利用して行われた。



病理診断学術奨励賞を受賞した松山篤二先生と羽賀博典先生(右から)

真鍋俊明先生ご苦労様でした

真鍋俊明先生には2005~2007、一期3年に亘り理事としてIAP日本支部の活動にご尽力頂きました。心より御礼申し上げます。

佐野壽昭先生理事再任よろしくお願いします

佐野壽昭先生には2005~2007に引き続き2008~2010の理事をお願いすることになりました。よろしくお願い申し上げます。

笹野公伸先生IAP日本支部の新理事に よろしくお願いします

理事選挙の結果笹野公伸先生が新理事(2008~2010)に選出されました。どうぞ先生の国際性をIAP日本支部にも活かして支部活動にご尽力頂きたくお願い申し上げます。

また、以下のカンファレンスが同時に開催された。

(1) 第40回Bone Tumor Clubが第7回日韓合同スライドカンファレンスとして、10月27日(午前)に開催された。韓国側会長

Anhi Lee教授(Catholic University Our Lady of Mercy Hospital)と日本側会長 恒吉正澄教授(九州大学)の挨拶に続いて、韓国側司会人 Dr. Dong Hoon Kim (Kangbuk Samsung Hospital)と日本側司会人 菊地文史先生(NTT関東病院)により両国の参加者(韓国13名、日本14名)が紹介された。米国Mayo Clinic教授 K. Krishnan Unni先生が“What is the new disease entity in bone pathology” and “Common errors in diagnosis of chondroid lesion” の演題で講演をされた。両国それぞれから3症例、合計6症例が提示された。

(2) 第3回日韓腎病理カンファレンスは、日本からは10名(重松秀一、田口尚、上田善彦、江原孝史、深澤雄一郎、清水章、小川弥生、藤井晶子、橋口明典、城謙輔)の参加があった。今回、症例検討の他に、Topic Discussionのセッションを設け、日常の診断で混乱している膜性増殖性糸球体腎炎の鑑別診断を、韓国と日本の双方から発表して、その相違を意識的に見つけ討論する方式をとることで日韓の一一致を試みた。症例検討では、パラプロテイン血症性腎炎、本態性血小板增多症、門脈全身循環シャント性腎炎、LCAT腎症および家族性アミロイド多発神経炎性腎障害が検討された。

(3) 第2回日韓肺病理Joint Slide Conferenceが10月27日(土)午前にShine Ville Luxury Resort別館で行なわれた。参加者は日本側がJPPS (Japanese Pulmonary Pathology Society)関係者を中心に15名、韓国側がIAP韓国支部会長、Sang-Ho Cho先生、KCPSG (Korean Cardiopulmonary Pathology Study Group)会長、Kyo-Young Lee先生をはじめとする19名の参加であった。症例は日本側3題、韓国側3題であった。今回、初めてvirtual slideを用いた(当初はDVDの配布予定でしたが韓国側がweb siteにuploadしてくれて大いに助かりました)。

5. Surgical Pathology Update 2007

SPU 2007は6月22日(金)から24日(日)の日程で、葉山の湘南国際村で開催された。Course Directorは例年通りSteven G. Silverberg教授(Maryland大学)と長村義之教授(東海大学)が務めた。はじめにIAP日本支部会長の橋本 洋先生から開会と参加者への挨拶があった。本年のテーマは「GYN and GI Pathology」で、Facultyとして上記2名に加え、Henry D. Appelman教授(Michigan大学)、加藤 洋教授(独協医科大学日光医療センター)、田久保海裕先生(東京都老人医療センター)、清川貴子先生(慈恵医大病理)をお願いした。

SPU2007を開催するにあたり、以下の協賛企業各社に大変お世話になりました。ここに改めて御礼申し上げます。

Mainly sponsored by

サクラファインテック(株)

Jointly sponsored by

第一三共(株)、(株)臨床病態医学研究所シーアールシーグループ、(株)文光堂、ゼリヤ新薬工業(株)、三菱ウエルファーマ(株)、エーザイ(株)、(株)福岡研明社、帝人ファーマ(株)、サノフィ・ベンテイス(株)、(株)三和、オリンパス工業(株)、浜松ホトニクス(株)、正晃(株)、UCC上島珈琲(株)

以上順不同

6. その他(IAPスライドセミナー-新規バーチャルスライド化の件)

審議事項:

1. 新入会員の件(報告事項の庶務報告を参照)

2. 理事ならびに役員の改選の件

理事選挙の結果

2007年度任期満了理事2名(真鍋俊明先生、佐野壽昭先生)の後任(2008-2010年度理事)についての理事選挙では、佐野 壽昭先生と笹野 公伸先生が新理事に選出された。

平成19年度退会

森野英男(ご逝去)、並木恒夫、吉木 敬、志賀淳治、
原 満、横瀬喜彦、斎藤 澄(ご逝去)、福田芳郎(ご逝去)、
白澤春之(ご逝去)、長嶋健夫(ご逝去)、清久泰司
賛助会員

(株)文光堂、京浜予防医学研究所、エーザイ(株)、
サクラファインテックジャパン(株)、岩井化学薬品(株)

会費納入状況(2007.10.31現在 573名中)

平成19年度会費

納入者 443名(77%)

未納者 130名

2. 2007年度病理学教育セミナー

3. 5th Asia Pacific IAP Congress開催

5月27-31日にSingaporeのRaffles City Convention Centerで開催された。Dr. Gilbert ChaingがPresidentで、Organizing CommitteeのChairpersonはDr. Angela Chongが務めた。Keynote Lectureは、Emeritus Professor K. Shanmugaratnamというご年配の方がされ、泌尿器ではDr. J.I. Epstein、肺ではDr. W.D. Travis、GIではDr. G. Y. Lauwers、乳腺ではDr. Ian Ellis、肝胆ではDr. N.D. Theise、GYNではDr. Jaime PratがPlenary lectureをされた。長村、内藤、白石、中嶋、笹野、森谷、中谷、廣島、都築、清川、北市、市原、藤井、新井、横井、藤本先生が活躍されていた。Japan Night in Singaporeも29日の夜に豪勢な中華料理屋Lei Garden Restaurant (Chijmes)で開催された。学会のabstractはPathology InternationalのVolume 57, Supplement 1 (May 2007)に掲載される。

Business Meetingは中国、台湾、マレーシア、タイ、シンガポール、オーストラリア、インドネシア、インド、韓国、香港、日本から約20名が出席し、Montreal Congressの時に開かれたBusiness Meetingの確認事項が主であった。

(1) 今回のCongressは21カ国からの出席者(約500名位)があり、130のabstracts、129人のspeakerであった。

(2) Dr. Anthony Leongと長村先生からは、従来アジア地域におけるローカルな学術交流、教育の場としての意味合いのものであったが、国際的に著明なspeakerが数多く招請されたので、アジアの人々の活躍の場が少なくなっているのではないかとの意見が出された。

(3) 臓器や特別なテーマを設けたCompanion meetingを発展させて、アジア各国の結びつきを強化してはどうかとの提案がなされた。韓国のDr.Sang-Ho Choが日韓のスライドカンファレンスで肺病理の分野でも日韓の交流が始まったことを報告した。第7回のAsia Pacific IAP Congressの開催に、台湾が立候補され、全員一致で決定した。

4. 第10回日韓合同スライドカンファレンス

2007年10月26日、第10回の日韓合同スライドカンファレンス(The 10th Korea-Japanese Joint Slide Conference of the IAP)がJeju island(济州島)で開催された。

橋本 洋IAP日本支部会長のご挨拶で始まり、ついでSang Ho Cho学会長(韓国IAP支部Director)の歓迎のご挨拶、韓国病理学会の会長Han Kyeom Kim教授のご挨拶の後、スライドカンファレンスが開始された。日本側4題、韓国側4題の症例についてホットなディスカッションが交わされた。

特別講演としてMayo ClinicのKrishnan K. Unni教授が“What should general pathologists to know about bone pathology before signing the report”と題して講演されました。第11回は日本で2009年に“名古屋”で開催予定で進めようとの話になった(藤田保健衛生大学の黒田 誠教授にお世話をいただく予定)。

2007年度病理学教育セミナー開催される

日時:平成19年12月8日(土) 9:00~17:30

場所:国立オリンピック記念青少年総合センター(東京・代々木)
秋期病理学会に続く12月8日土曜日に、2007年度IAP日本支部の教育セミナーが開催されました。前半のシンポジウムまた後半のスライドセミナーの演者の先生方には、準備段階からのご協力、さらには興味深い内容のご講演をいただき、おかげさまで盛況のうちにセミナーを終えることができました。こころよりお礼申し上げます。また、会場となった代々木の国立青少年センターは代々木公園と隣接しており、都心にしては緑の多い環境であり、設備等についても概ね好評でした。参加人数は、教育シンポジウムでは、300人のセミナー室がほぼ満席となり、午後のスライドセミナーは述べ610人の受講者にご参加いただきました。



教育シンポジウム会場



教育シンポジウム会場



教育シンポジウムにおける熱心な質議応答

教育シンポジウム 9:00~11:50

主題:炎症性皮膚疾患:臨床医が求める病理診断報告書

モデレーター:清水 道生

(埼玉医科大学国際医療センター病理診断科)

1. 病理医が知っておかねばならない炎症性皮膚疾患の基礎知識
大原 國章(虎の門病院皮膚科)

2. 炎症性皮膚疾患におけるパターン分類:病理報告書の実例を中心に
木村 鉄宣(札幌皮膚病理研究所)

3. 病理診断が決めてとなる症例とビットフォール症例
横山 繁生(大分大学医学部腫瘍病態制御講座)
4. 病理診断での判定困難症例:病理報告書における対応策
桜井 孝規(埼玉医科大学国際医療センター病理診断科)
5. 臨床医が求める病理報告書とは:具体例を中心
石河 晃(慶應義塾大学医学部皮膚科)

スライドセミナー

今年度より、新規コース2コースにつき、ガラス標本に代わりバーチャル・スライド型式のDVDを事前資料としてお送り致しました。この新たな試みについて、アンケート等の評価では、平均するとガラス標本の評価と大差はありませんでしたが、まだまだ改善の必要があることがわかりました。特に事前のお知らせが不十分であったこと、またPCの機種や施設の規定等によってはDVDをご覧になれなかった受講者もあり、お詫び申し上げます。次回は愛媛県松山市にて開催の予定ですが、4コースが新規となりますので、今年度の反省点を活かし、より良い評価をいただけるよう取り組みたいと考えております。

1時限目 13:15~15:15

*A-1 悪性リンパ腫関連疾患

吉野 正(岡山大学大学院病理・病態学講座)

B-1 皮膚付属器腫瘍

清水 道生(埼玉医科大学国際医療センター病理診断科)

C-1 腎・尿路病変の病理

金城 満(新日鐵八幡記念病院病理部)

D-1 上部消化管の腫瘍性病変

二村 聰(福岡大学医学部病理学講座)

2時限目 15:30~17:30

*A-2 甲状腺腫瘍、新WHO分類を中心として

加藤 良平(山梨大学大学院人体病理学講座)

B-2 軟部腫瘍

橋本 洋(産業医科大学第一病理学講座)

C-2 乳腺疾患の病理

秋山 太(財団法人癌研究会癌研究所病理部)

D-2 非腫瘍性リンパ節病変

小島 勝(群馬県立がんセンター臨床検査病理)

*印は新規のものです。(文責 内藤)

第47回 IAP日本支部総会議事録

報告事項:

1. 庶務報告

総会出席予定者

53名(573名中) 欠席委任状136名

会員数(2007.10.31現在) 573名

平成19年度新入会員 11名

No.0758 益澤 尚子 (大津市民病院病理科)

No.0759 永井雄一郎 (千葉大学大学院医学研究院病態病理学講座)

No.0760 飛岡 弘敏 (北海道社会事業協会 小樽病院病理診断部)

No.0761 渡邊 麗子 (静岡がんセンター 病理診断科)

No.0762 前田 大地 (東京大学医学部附属病院病理部)

No.0763 永田 耕治 (埼玉医科大学国際医療センター 病理診断科)

No.0764 武内 英二 (滋賀県立成人病センター 病理部)

No.0765 山口 岳彦 (札幌医科大学 病理診断科)

No.0766 石川 文隆 (東京女子医科大学医学部 第二病理学教室)

No.0767 笹島 ゆう子 (国立がんセンター中央病院 臨床検査部細胞検査室)

No.0768 川本 雅司 (日本医科大学付属病院 病理部)

平成20年度 IAP日本支部理事・役員

会長	橋本 洋
前会長	諸星 利男
次期会長	松原 修
本部前会長	牛込新一郎
SPU Course Director兼	
前々会長	長村 義之
常任幹事	根本 則道
教育担当	内藤 善哉
理事	佐野 壽昭
理事	清水 道生
理事	野島 孝之
理事	吉野 正
理事	白石 泰三
理事	笹野 公伸
会計監事	岩崎 宏
常任幹事秘書	家守 玉美
種々の委員会役員	

IAP日本支部理事指名委員会

委員長	諸星 利男
副委員長	長村 義之
委員	中村 栄男*
委員	岩崎 宏
委員	中里 洋一*

IAP 日本支部・病理診断学術奨励賞選考委員会

委員長	野島 孝之
副委員長	山邊 博彦*
委員	吉野 正
委員	清水 道生
外部委員(日本病理学会から) (未定)	
外部委員(日本細胞学会から) (未定)	

事務局として常任幹事 根本則道

Award(賞)委員会(学術奨励賞以外)

委員長	山邊 博彦
副委員長	橋本 洋
委員	牛込新一郎
委員	加藤 洋*
委員	松原 修

*理事会に出席してもらう役員

第3回理事会の議事録

日時:平成19年12月6日(木曜日)12:15-13:15

場所:江戸川総合区民ホール(タワーホール船堀)4F406会議室

出席者:橋本、諸星、長村、内藤、真鍋、佐野、吉野、白石、岩崎、山邊、加藤、牛込、根本、家守

欠席者:松原、清水、中村、中里、野島

報告事項:

1. 庶務報告
2. 2007年度病理学教育セミナー
3. 5th Asia pacific IAP Congress

4. 第10回日韓合同スライドカンファレンス

5. Surgical Pathology Update 2007

6. その他

審議事項

1. 新入会員の件

2. 理事ならびに役員の改選の件

理事選挙の結果

2007年度任期満了理事2名(真鍋俊明先生、佐野壽昭先生)の後任(2008-2010年度理事)についての理事選挙では、平成19年度理事指名委員会で指名された以下の4名についての投票が行われ、佐野 壽昭先生と笹野 公伸先生が新理事に選出された。投票者115/570人(投票総数 115×2=230票うち1票無効)投票率20%、役員について(別紙参照)。

・松野 吉宏(北大1983年卒) 北海道大学病院病理部部長

・佐野 壽昭(徳島大1976年卒)徳島大学病理学第一講座教授

・笹野 公伸(東北大1982年卒)東北大学大学院医学研究科病理診断学教授

・柳澤 昭夫(群馬大1976年卒)京都府立医科大学大学院医学研究科人体病理学教授

京都府立医科大学附属病院病院病理部部長

3. IAP 日本支部・病理診断学術奨励賞選考結果

松山篤二先生(産業医科大学病理部)

Molecular Detection of FUS-CREB3L2 Fusion Transcripts in Low-grade Fibromyxoid Sarcoma Using Formalin-fixed, Paraffin-embedded Tissue Specimens. Am J Surg Pathol 30(9): 1077-1084, 2006

羽賀博典先生(京都大学医学部附属病院臓器移植医療部)

Acute Humoral Rejection and C4d Immunostaining in ABO Blood Type-Incompatible Liver Transplantation. Liver Transplantation 12: 457-464, 2006

4. 2007年度決算および2008年度予算の件(別紙参照)

5. 病理学教育セミナー

病理学教育セミナーに関してはシンポジウムのテーマが、スライドセミナーに関して次年度は新規に4コースが加わる予定である。また、スライドセミナーに関してガラススライドに代わるバーチャルスライドの導入の可能性についても意見が出された。

6. SPU2008

SPU2008は6月13日~15日にDr. S.G.Silverberg、Dr. Lester D.Tompsonを迎え、婦人科病理と頭頸部の外科病理がテーマとなる予定

7. 日-台合同スライドカンファレンス(福岡市、2008年9月6日)

世話人:橋本 洋教授 (産業医科大学)

8. 国際病理学会総会(アテネ、2008年10月12日~17日)

9. 次回の理事会(平成20年度第1回)2008年2月4日(月曜日)

10. その他

平成19年度の病理診断学術奨励賞については2名の応募があり、選考委員会で厳正な審査を行った結果、以下の2名とも病理診断学術奨励賞の受賞に相応しいとされた。

Surgical Pathology Update 2008(IAP) 参加者募集

IAP日本支部では国際的基準(Global standard)に基づく病理診断医(Surgical Pathologists)の育成と米国を中心とした外国の著名な病理医との交流をめざすことを目的に、全国から希望者50名を募り2泊3日の合宿(湘南国際村センター、神奈川県三浦郡葉山町上山口1560-39)により、米国から招聘した専門分野の講師および日本側のFacultyと共に講義実習を行うSPUを2000年から行っています。

今年の日程は6月13日(金)から15日(日)で、Course DirectorはMaryland大学のSteven G. Silverberg教授と東海大学の長村義之教授が務めます。

今年のテーマは、「頭頸部腫瘍と子宮内膜の病理」で、FacultyはSilverberg教授、Woodland Hills Medical CenterのLester D.R. Thompson先生、東京医科大学病理診断学講座の長尾俊孝先生、国立病院機構名古屋医療センター研究検査科病理の森谷鈴子先生にお願いしています。2泊3日の合宿により、スライド鏡検を中心とした実習と解説を行い、関連分野の最近のトピックスの講演も行う予定です。

なお、社団法人日本病理学会の後援を受けており、病理専門医資格更新の際10単位が得られます。

参加費はIAP会員が45,000円、非会員が55,000円で、宿泊費、会場費、食事代、事前の病理ガラススライド配付、当日のハンドアウトなどを含みます。例年SPUは大変好評で、今回も多数の希望者が予想されます。受付けは去年同様に先着順とさせていただきます。セミナーの講堂の広さと椅子に限りがあるため50名の定員とさせていただきます。希望されても参加者に登録できなかった方にはスライドセットとハンドアウトが余れば、優先的に有償でお譲りしようと思います。毎回登録をめぐり、スライドセットとハンドアウトの有償配布で若干のトラブルが生じ事務局も心苦しいかぎりですが、どうかご理解下さい。

参加希望者は、氏名、年齢、性別、所属、連絡先(住所、電話、FAX、e-mail)、IAP日本支部会員か非会員、日本病理学会会員か非会員を明記の上、e-mail(またはファックス)で申し込んで下さい。なるべくe-mailでお願いしたいと思います。連絡はFAX:04-2996-5193、e-mail:matubara@ndmc.ac.jpです。

IAP日本支部SPU事務局:松原 修(防衛医大病態病理)

The 4th Asia-Pacific Society for Molecular Immunohistology (APSMI)のご案内

第4回APSMIは2008年6月25日~27日の日程で長村義之会長のもと、マレーシア・ペナン島のPark Royal Hotelを会場として開催されます。今回のテーマはMolecular Immunohistology in Surgical Pathology Practiceで以下の内容が予定されています。

25th June (Wednesday) Precongress workshop

Topic: Applied Immunohistology and molecular techniques in surgical pathology

Convenors: Prof. Anthony Leong and Prof. Jennifer Hunt (USA)

26th June (Thursday)

Morning: Gynecologic Pathology

Convenors: Norain Karim (Malaysia)

Afternoon: Pulmonary Pathology

Convenors: Prof. Sang Ho Choe (Korea) and Prof. Osamu Matsubara (Japan)

27th June (Friday)

Morning: Hematopathology

Convenors: Prof. Sanya Sukpanichant (Thailand) and Prof. Suat Chen Peh (Malaysia)

Afternoon: Head and Neck Pathology

Convenors: Prof. Gary Tse (Hong Kong) and Prof. Jennifer Hunt (USA)

連絡先: Dr. Pongsak Wannakrairot, President, RCPATH Thailand, Department of Pathology, Faculty of Medicine, King Chulalongkorn Memorial Hospital, Chulalongkorn University, Bangkok 10330, THAILAND

Tel: 66-2-2564235 Ext. 309, Fax: 66-2-6524208, E-mail: fmedpwn@md.chula.ac.th

事務局より振込用紙記載ミスのお詫びとお願ひ

昨年12月中旬、IAP日本支部事務局から「平成20年度会費振込用紙」を発送させていただき、会員のお手元にはすでに振込用紙が届いていることと存じます。

ところが、平成19年度分の会費を昨年1月上旬までに振込み納入された会員の方に限って、同会費納入の入力記載漏れにより、「平成20年度会費振込用紙」に誤った滞納年度(平成19年度分)の記載をしていましたが発送後に判明致しました。今回の入力記載漏れの原因は、その後の調査により平成19年3月のIAP日本支部事務局交代(防衛医大病理から日大病理)に伴う振込納入通知先変更の引継ぎのミスにありました。

事務局の手違いから平成19年度分までの会費納入済みの会員には、大変不愉快な思いやご迷惑をおかけしました事を深謝申し上げます。事務局としては振込用紙の記載ミスが判明した直後に、すでに19年度の会費納入済みの会員に“お詫び状”と共に記載ミスをお知らせ致しましたが、入れ違いに19年度会費を重複して納入頂いた会員には、以下の方法のいずれかを選択して頂いております。

- ①返金(現金書留あるいはご指定の銀行口座への振込)
- ②平成21年度会費への振替(この場合、平成21年度会費の領収書を発行すると共に、21年度会費をすでに納入されている旨を本年度12月中に改めてお知らせ致します)

重複納入され、まだ①②のいずれかの方法を選択頂いていない会員の方には、お手数をおかけして大変申し訳ございませんが、上記についてご連絡頂きますようお願い申し上げます。事務局としては今後万全の体制で臨みますので、何卒ご寛容のほどお願い申し上げます。

あとがき

2008年度第1号の会報をお届けします。また、2007年度決算報告、2008年度予算報告、教育シンポジウムとスライドセミナーの要望テーマについてのアンケート用紙を同封いたします。よろしくご協力のほどお願い申しあげます。

173-8610 東京都板橋区大谷口上町30-1

日本大学医学部病理学 根本則道/家守玉美

Tel: 03-3972-8111 内線2256/Fax: 03-3972-8163

E-mail: iapj@med.nihon-u.ac.jp